

# 勝林寺 報

## 戦禍のなかで

わたしの青春は日中から大東亜。そのまた戦後の混乱のなかで躊躇されたといつても過言ではない。しかもわたしは眼の病に難渋していた。

だからと言えば「弁解じみ」で恥ずかしいが、いわゆるキチンとした正規の勉強・学問は殆どしていない。

辛うじて弘道小学校（国民学校にかわっていた）を卒業し、京都の平安中学へ入学したのは昭和十三年の春。その前年、例の南京大虐殺があつて、日中の戦線は拡大し続けていた。中学入学と同時にブラスバンド部には

いり連日バズーンを鳴らして徐州陥落・武漢三鎮陥落の祝賀パレードに狩り出されていた。

またあのころわが校の野球部は甲子園で全国優勝していた。その応援にもブラバンは参加した。部活動はいま一つ「弁論部」というのがあって一年生のときから対外討論会などに狩り出されていた。（しかしこれら部活は二年まで続かなかった）眼病で松原通りの眼科に学校を休んで通院しなければならなかつた。

そんなこんなで余り勉強はせずに、それでもなんとか進級出来たようであつた。今の中学校高生をみていると基礎学力について強い劣等感を感じる。

眼病のため休学したりして何年か遅れていることもあって、当時中学は五年制であつたが、遅れを取り返す願いから、四年終了のところ竜谷大学予科（今でいう高校）を受験した。出石の先輩がその大学に在学していて勧誘して下さったからもある。

昭和一七年の四月、不思議に合格したもの印象には残っていない。というのはあのころ次第に大戦の戦況が怪しくなるにつれ、軍事教練の合間に始終「勤労動員」「勤労奉仕」

というものがあつて、大学の校舎での授業はほとんど覚えがない。大阪の軍需工場・滋賀県の田舎の稻刈り・遠く島根県の水害復旧作業。また檍原神宮の森の造成などなど。

いま思い出せるのは朱熹『論語集注』・沢瀉先生の『源氏物語り講読』、その他キリスト教史くらいなものである。学校の授業を離れて自分で読書するしかなかつた。

幸いに私は予科に入つてからは一年間の寮生活を除いては、叔父にあたる大学教授の家に下宿していた。その家には沢山の図書がありた。「夏目漱石全集」は片つ端から読んだ。

「漢詩集」、これは理解できたかどうかわからぬが、李白・杜甫など暗唱してみて独り悦に入っていたのだろう。聖徳太子の『三經義疏』は和緩じの本を購入したが読めたのは「法華經義疏」ぐらいであつたと思う。この間、級友は次々招集されて戦地へ行く、クラスがほとんどからっぽになつた昭和二〇年初春。わたしにも召集令状がきた。

出石には二日間帰つて出征した。

丁度出石は初午でサーカスや屋台で賑やかであった。

当時勝林寺の本堂や庫裡には疎開児童（戸の長樂小学校）が大勢きていてその子供たちが八木町のバス停まで賑やかに送つてくれた。サークスのジンタも特別演奏してくれた。

そのとき一緒に鳥取に入隊したのは三人。（内一人は広島の原爆で死んだ）

## 竹

子供のころ、当時高等科を卒業してすでに社会人になりたてのおにいちゃんが寺の近所に二人いた。この二人が幼い私の教育係であつた。一人は音楽好きで、蓄音機でポピラーな西洋歌曲を聴かせてくれた。あき缶たたいて樂隊ごっこ。人形劇を他町まで出掛け上演したり。…。

日常的には、私の寺の本堂の縁の下が町中の子供たちの工作工房であつた。みんなで寄つてきてスキー やソリ。竹トンボ、剣や杉鉄砲。材料は主に「竹」だった。寺のまわり、どこにも竹やぶがあつて材料は豊富であつた。

寺の前の登記所には杉垣がめぐらされていて大ぶりな杉の実がいくらでも採れた。町じゅうのこどもたちの杉鉄砲の玉の供給源であつた。またそこには葡萄畠もあつて、登記所のおばあちゃんによくその葡萄をもらつた。今から思えばいっぱいの自然の中で遊んでいたようであつた。

なかんずく、「竹」がその時代と社会を包んでいたようと思う。

（八〇年たつて今氣づいてみるとその「竹」が全く消えてしまつてない。）

姉に連れられて町の中心部を流れる大川（出石川）に「水わび」（水泳）にいつた。川端の堤の竹藪をぬけて川ぶちの「イト」まで出るのだが、途中藪のなかで着物を脱いでおく。当時はどの川のふちにも竹が一杯はえていて藪があつた。また、その竹の根は護岸の役目をしていたし、竹の根がつくる岸の「ウロ」は川魚の最適な住家で、「水わび」の合間に川魚とりに夢中になつた。大人は「モンドリ」という長い竹籠をしがけで鰻などをとつていた。

当時、こどもだけでなく、世の中みんな竹に包まれていたのではないかと今になつて回想する。

生活用具。夏、ごはんを蒸れないよう容れておく竹籠の「おひつ」。竹の「おしゃも」竹箸、縁側も太い竹で作られていた。第一家庭や蔵。その壁下は例外なく竹が組まれていた。耐震建築であったわけだ。

そういうえば、城崎の地震のときには、寺の門の側の竹やぶに幕をはつて避難していた。

それをおぼろげながら覚えている。

竹籠、竹のミイ。赤子は藪のフゴにいれられて田園のアゼ（畔）で育てられた。

だから昔の子供は、竹のようにスキッと育ち藪のようにしなやかで、しかも粘り強かつたといたいけれど、そこまで言わなくとも、川縁からも山裾からも、あたかも「厄介者払い」のよう根こそぎ「竹」を切りはらつてしまつた今の世を、はたしてこれでいいのかと寂寥の感を抱かざるをえない。

昔は「たけ」に支えられてあった社会。

今はコンクリートで固められた社会。生活用具はすべてプラスチック。

かくて、洪水で山は崩れ、堤防が切れて、川魚も海の魚もいなくなつていると言う。山川自然に育まれていたいのちのもつたいなさをわたしは改めて懷うのである。

「國破れて山河あり」とはいえない荒廃した日本。「自然法爾」（じねんほうに）のおしえをこんなところで味わつてはいけないのだろうか。

竹籠、竹のミイ。赤子は藪のフゴにいれられた田園のアゼ（畔）で育てられた。

だから昔の子供は、竹のようにスキッと育ち藪のようにしなやかで、しかも粘り強かつたといたいけれど、そこまで言わなくとも、川縁からも山裾からも、あたかも「厄介者払い」のよう根こそぎ「竹」を切りはらつてしまつた今の世を、はたしてこれでいいのかと寂寥の感を抱かざるをえない。

昔は「たけ」に支えられてあった社会。

今はコンクリートで固められた社会。生活用具はすべてプラスチック。

かくて、洪水で山は崩れ、堤防が切れて、川魚も海の魚もいなくなつて

有り難いいのち

私の体は、頭の先から脚の先まで、もちろんいろいろな臓器・器官をふくめて約六十兆もの細胞が組合わさって出来ています。なおその細胞の内部には、例えば文字になおしてみると三十二億の文字の遺伝情報が書き込まれています。

例えてみますと、1ページ当たり一千文字、それが一千ページの書物。その書物320冊分の百科辞典が、60兆個の細胞一つ一つに書き込まれてていることになります。

人間である私は、このようなかたちで今生きています。

例えてみますと、1ページ当たり一千文字  
、それが一千ページの書物。その書物320  
冊分の百科辞典が、60兆個の細胞一つ一  
つに書き込まれていてことになります。  
人間である私は、このようなかたちで今を  
生きているのです。

☆

☆

今から三千年昔、お釈迦さまが悟ったとい  
う「縁起（因縁生起）の法」とは、まさに現  
代科学が21世紀になって解明した「もの」の  
成り立ち「いのちのありよう」であつた只

「もったいない」という日本語。「モッタ  
イ」とは、「物体」の異音よみです。固定的  
なこれ（主体）というものはないということ  
の意味の言葉。「因一果（この原因でこの結  
果がある）など、そんな単純なものではない  
プラス・マイナス、良縁・悪縁。無数の条件  
のからみあいのなかで、始めて今命がある  
のに、そのことをおもわず、「われここにあ  
り」という「もったい顔」（我が身あり顔）  
の生き方、わたしの意見、わたしの考え方、  
私中心の、「自己」中心的（自己中）とらわれ  
。仏教ではそれを「我執」（カシヨウ）とよんで最  
も戒めているのです。

# 勝林寺仏婦子供研修会 之案内

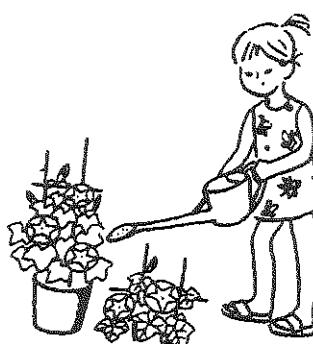
今年も勝林寺仏婦子供研修会に参加しましょう！！

日 時 : 8月19日(金) 午前9:30受付  
開会 9:45 閉会 17:00

参加費 : 子供 1人 500円 2人 700円  
大人 500円

内 容 : 作法 (合掌礼拝・お焼香)  
おつとめの練習(正信偈)  
ゲーム  
学習 (工作・手芸)  
ビデオ 等

・持ち物　・　念珠　・　聖典



申し込み : 12日までに各地区仏婦評議員さんへ

申し込んでください。

お念佛となえつつ仏恩のなかの余生を命ある限り歩みましょう。

信心まことにうるひと  
憶念の心つねにして  
仏恩報するおもいあり

親鸞さまは晩年、名もない庶民とともに、当事流行の「和讃」を五百首以上もつくつて、若い時代身につけた朗唱でいまある命の貴さを歌い上げました。

五 日 (金)	藤田正吾宅	初盆	一七・三三回忌
六 日 (土)	横山洋海宅	三回忌	
七 日 (日)	関川 永宅	初盆	
八 日 (月)	勝林寺 戦没者追悼盂蘭盆会		
九 日 (火)	澤田善男宅	初盆	
一一日 (木)	田村哲夫宅	初盆	
一二日 (金)	出石町内 A	盆回り	
一二日 (金)	出石町内 B	盆回り	
一三日 (土)	藤本 勉宅	初盆・納骨	
一四日 (日)	中山ゆかり宅	初盆・納骨	
一八日 (木)	出石町内 C	盆回り	
一九日 (金)	山田弘之宅	初盆	
二〇日 (土)	岩上定幸宅	三三回忌	
二一日 (日)	仲田一枝宅	忌明	
二三日 (火)	勝林寺 子供会		
二四日 (水)	齋藤義弘宅 忌明		
二六日 (金)	出石組遠忌法要実行委員会		
二八日 (日)	数森浩昭宅	初盆・一周忌	
二三日 (月)	信楽峻麿 和讚講義		
二三日 (火)	みのりを聞く会	七時半より	
二三日 (火)	同右		
二四日 (水)	岸下正美宅	三回忌	

